

令和2年度松仙園登山道登山口～松仙園湿原入口区間の 状況及び対策（案）

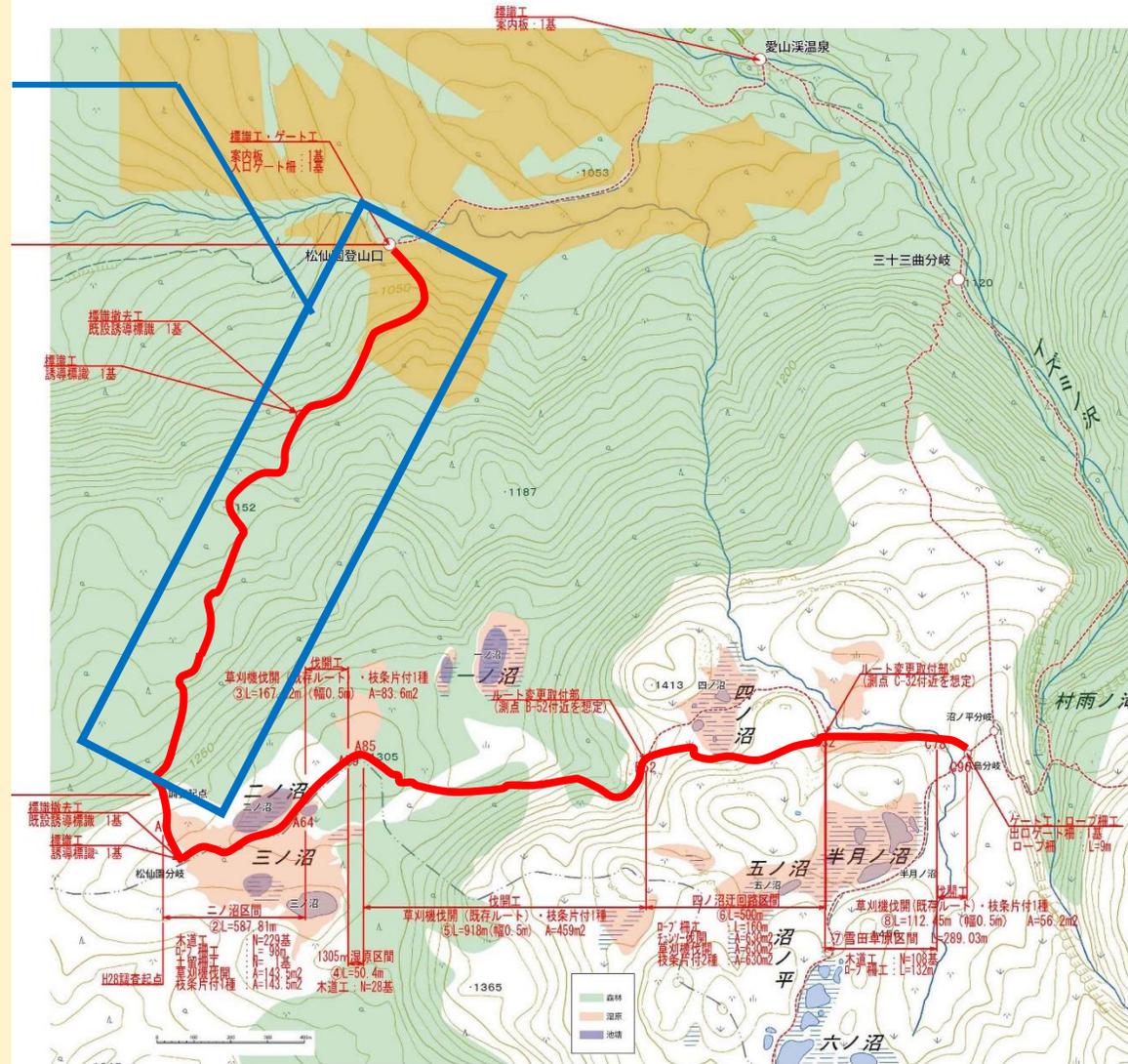
資料4

<課題：ぬかるみの発生>

- 松仙園登山口から松仙園湿原入口までの間の登山道に距離の長いぬかるみが発生。
- 放置をすると、
 - ・登山者がぬかるみをさけて歩道の脇を歩き、さらにぬかるみが拡大する。
 - ・土壌が流出し始め、周囲の地面の高さに比べて深く掘れた登山道となり、荒廃が加速する可能性が高く、早急な対応が必要。

<対応案>

- 周辺の倒木を半割にして敷くなどにより、簡易木道をつくり、登山者の歩行路を固定する。
- これにより、登山道拡幅、ぬかるみの深まり、土壌流出を防止する。さらに、土壌を攪乱、攪拌させないことにより、植物を回復させる。
- 令和3年6月に詳細な補修計画を立てる。



令和2年度松仙園登山道登山口～松仙園入口区間の状況及び対策（案）

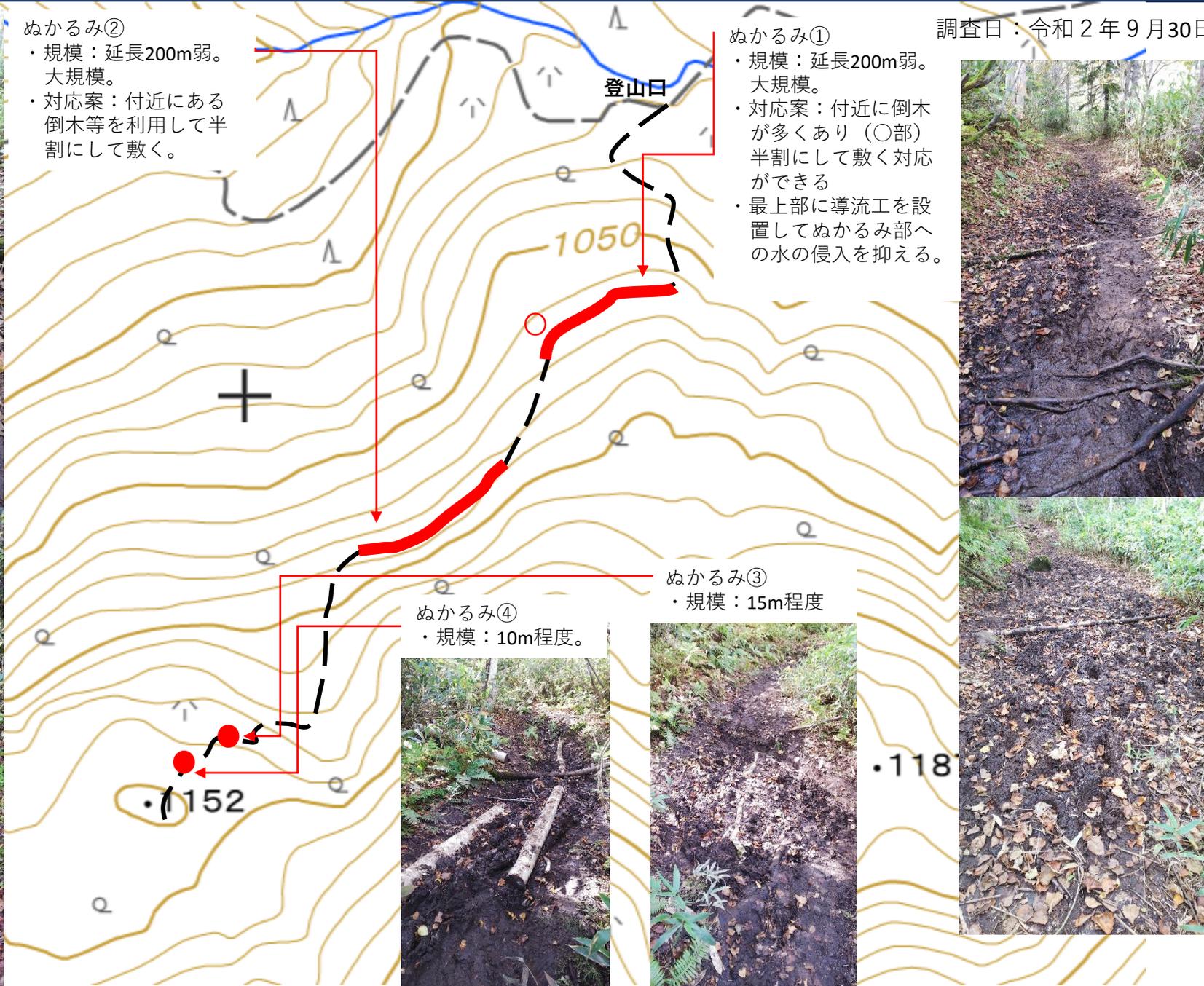
調査日：令和2年9月30日

ぬかるみ②

- ・規模：延長200m弱。大規模。
- ・対応案：付近にある倒木等を利用して半割にして敷く。

ぬかるみ①

- ・規模：延長200m弱。大規模。
- ・対応案：付近に倒木が多くあり（○部）半割にして敷く対応ができる
- ・最上部に導流工を設置してぬかるみ部への水の侵入を抑える。



ぬかるみ③

- ・規模：15m程度

ぬかるみ④

- ・規模：10m程度。





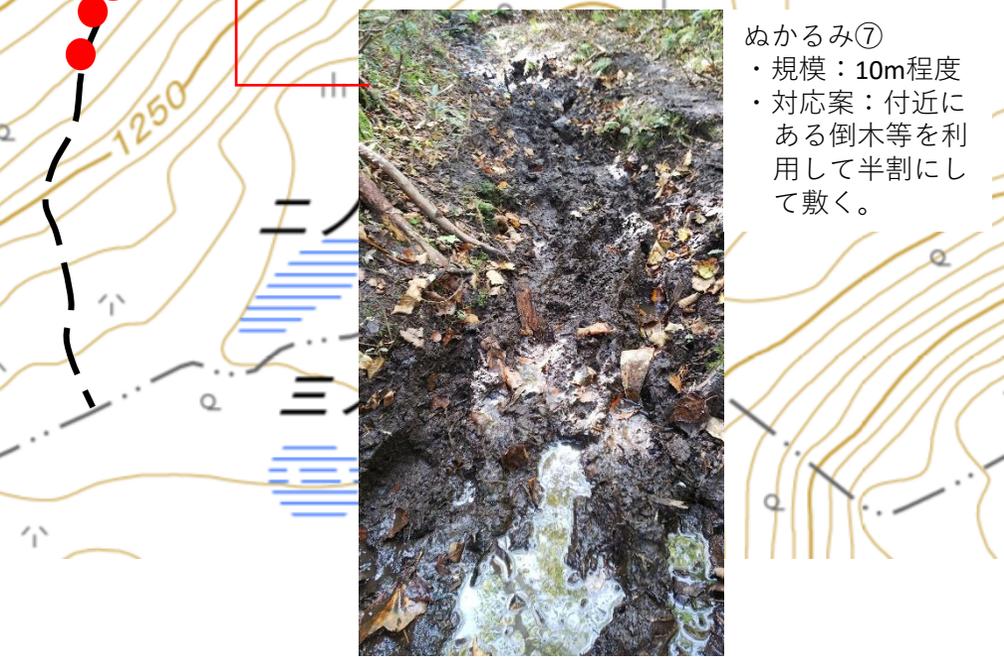
ぬかるみ⑤

- ・規模：50m程度
- ・対応案：窪地となっており排水が困難。さらにササを刈込み人が歩く道を設ける必要がある。



ぬかるみ⑥

- ・規模：50m程度
- ・対応案：導流工を設けて矢印の方向に排水。←の方向の先が地面が低くなっている。なお、土砂流出は防ぐ必要がある。



ぬかるみ⑦

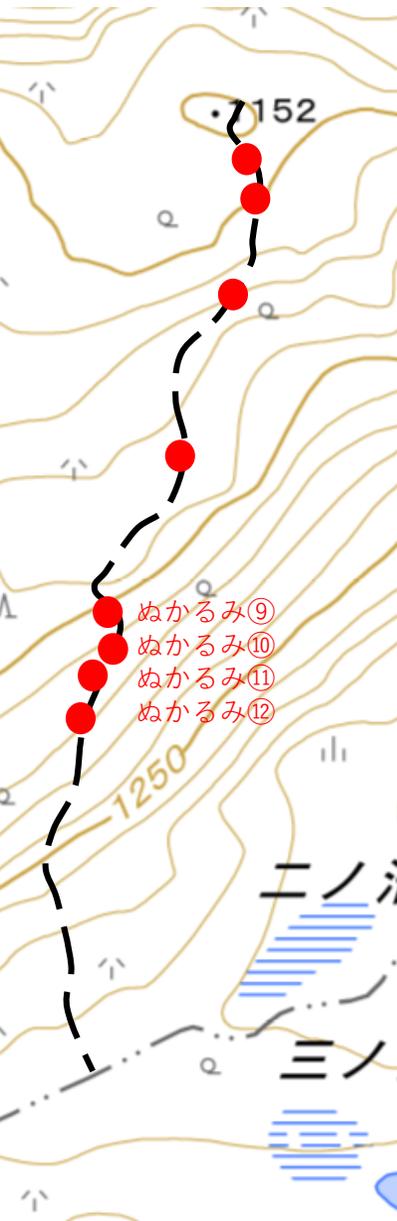
- ・規模：10m程度
- ・対応案：付近にある倒木等を利用して半割にして敷く。



ぬかるみ⑧

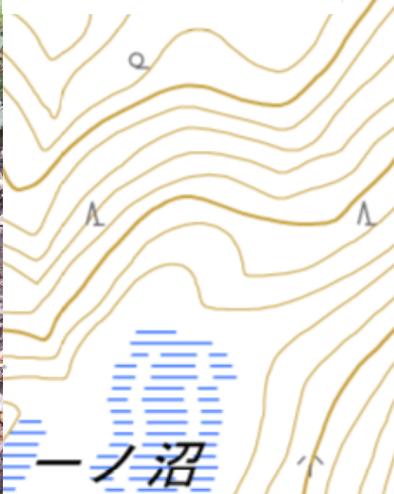
- ・規模：10m程度
- ・対応案：導流工検討（ただし、土砂流出は防ぐ必要がある）





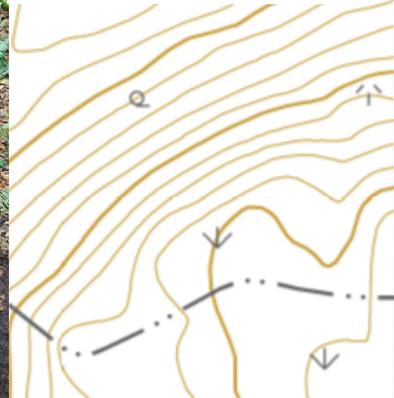
ぬかるみ⑨

- ・規模：10m程度
- ・対応：付近にある倒木等を利用して半割にして敷く。



ぬかるみ⑩

- ・規模：10m程度
- ・対応：付近にある倒木等を利用して半割にして敷く。



ぬかるみ⑪

- ・規模：20m程度
- ・対応：付近にある倒木等を利用して半割にして敷く。



ぬかるみ⑫

- ・規模：10m程度
- ・対応：付近にある倒木等を利用して半割にして敷く。

